

## 研究の背景

○文部科学省「論点整理」  
(令和7年9月25日)  
学習指導要領改訂の大きな方向性として、多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものにするため、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の作り手をみんなで育むことが示されている。

## 教育目標

学び合う子  
つながり、支え合う子  
たくましい子

## 児童の実態

- 学校が好きな児童が多い。
- 友達との関わりが深い児童が多い。
- 全体的に学習内容の定着に課題があり、特に言葉や文章を書いて表現することや、文章の意味を読み取ることなどを苦手としている。
- 対話や話し合い、社会参画の意識に課題がある。

## 研究主題

### 「わかった」「できた」を実感できる児童の育成

～多様な子供たちのための国語科「読むこと」を中心とした授業づくり～

## 目指す児童像

### ○文章が伝えようとしていることを読み取れる児童

言葉の意味を正しく理解し、作者や筆者が何を伝えようとしているのかが「わかった」

### ○他者との対話や協働を通して、自分の思いを伝えられる児童

読み取ったことから自分の考えをもち、その思いを伝えることが「できた」

## 研究仮説

ユニバーサルデザインの視点を取り入れて、文章が伝えようとしていることを読み取れるようになったり、自分の思いを伝えられるようになったりする授業を実現することで、児童が「わかった」「できた」を実感できるようになるだろう。

## 研究主題に迫る手立て

## 研究授業

### 重点

- ①学習のめあてやゴールを明確にする工夫
- ②他者との対話や協働の工夫
- ③「わかった」「できた」を実感できる振り返りの工夫

ユニバーサルデザインの視点（焦点化・視覚化・共有化）

### 基礎基本の学力の定着

- 朝学習
- 家庭学習

### 学習環境の整備

- 教室掲示の整理
- ルールの明確化

### 児童理解

- 実態調査  
(アンケート)

### 他教科との関連

- まちづくり学習